



TOKYO GAS GROUP

NEWS LETTER

2019年8月6日

<https://www.tokyo-gas.co.jp/>

【東京ガス都市生活研究所最新レポート】

ゆとり世代の新特徴を発見！

「夫婦はフェアに。家事は得意な方がやればよい!?」

東京ガス株式会社都市生活研究所は、2019年8月、都市生活レポート【20代『コミュ食世代』のライフスタイル Part2】を発行しました。その中から一部をご紹介します。

今までのイメージとは違う、ゆとり世代の特徴とは？

都市生活研究所では、平成元年から7年生まれの20代を『コミュ食世代』と名付けました。2019年の誕生日で24～30歳になる彼らは、いわゆる「ゆとり世代」の真ん中であり、上の世代からは「何事も受動的」「ストレス耐性がない」などと言われてきました。しかし、都市生活研究所で調査・分析したところ、これらのイメージとは異なる特徴が見えてきました。

今回はその特徴の一つである「フェアな関係で、得意を活かす」についてご紹介します。

配偶者とは対等で、何事も二人で一緒に考える

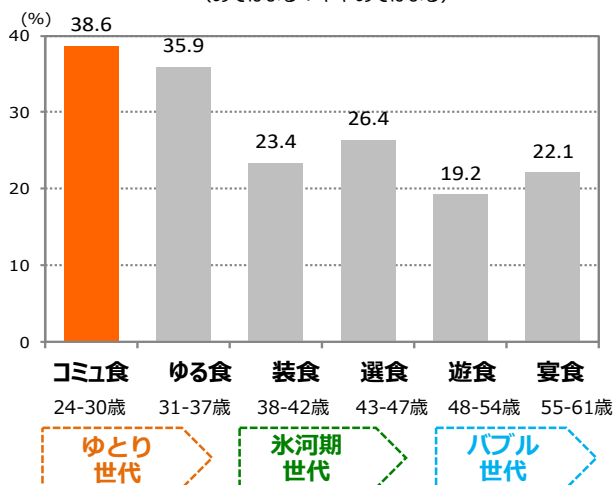
24～30歳※の『コミュ食世代』の夫婦は、常に対等でありたいと思っています。「配偶者とは対等でいるため共働きがよい」という考えは、男女とも他の世代に比べ最も高く、既婚者の約4割がそう思っています(図1)。

また、家庭内での選択や決め事は、何でも2人で一緒に考えるのがコミュ食世代です。「住まいの選択」について、2人で同じくらい考える(考えた)割合はコミュ食世代が最も高く、6割近くになっています(図2)。

※2019年誕生日後の年齢

図1. 配偶者と常に対等でいるため、共働きがよい【既婚】

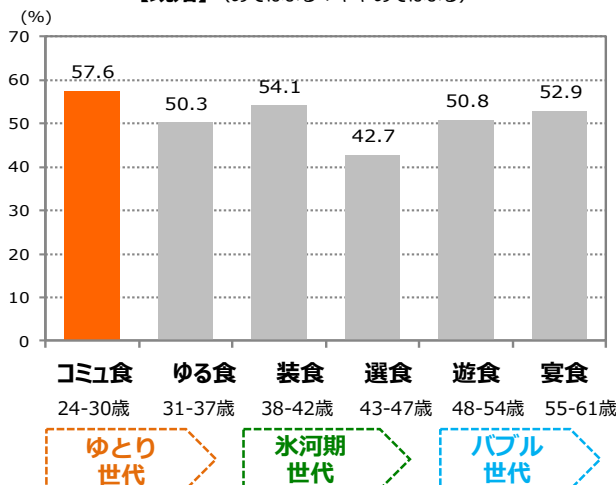
(あてはまる+ややあてはまる)



※2019年誕生日後の年齢 [若者に関する調査: 既婚者/n=948]

図2. 「住まいの選択」は2人で同じくらい考える(考えた)【既婚】

(あてはまる+ややあてはまる)



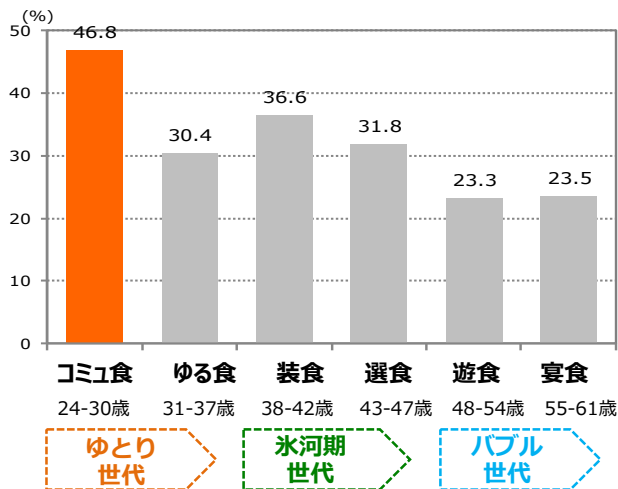
※2019年誕生日後の年齢 [若者に関する調査: 既婚者/n=948]

家事はできるほうがやればよい

『コミュ食世代』の夫婦は、性別で役割を決めるのではなく、できるほうがやればよいと合理的に考える人が多いようです。実際に家事はフェアに行っており、「気づいたときに気づいたほうがやっている」割合が高くなっています(図3)。

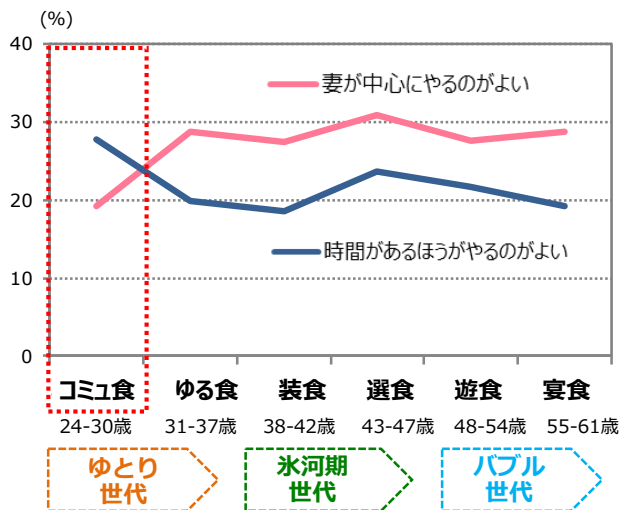
また、他の世代とは異なり、掃除についても「時間があるほうがやるのがよい」と考える割合が高いことから、家事を女性の仕事とは考えていないことがわかります(図4)。

図3. 家事は、気づいたときに気づいたほうがやっている
【既婚】(あてはまる+ややあてはまる)



※2019年誕生日後の年齢 [若者に関する調査：既婚者/n=948]

図4. 家事の分担に対する考え＜掃除＞【既婚】



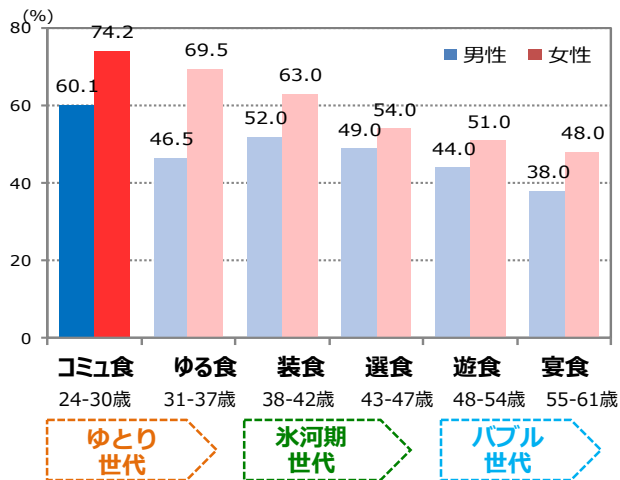
※2019年誕生日後の年齢 [若者に関する調査：既婚者/n=948]

料理はスキルとして身につけたい

料理については、面倒な家事というよりは「スキルとして身につけたい」と考える人が男女とも多いことがわかります(図5)。

料理を生きていくために大事なスキルのひとつと考え、自分自身のために純粋に身につけたいと考える人が多いのが『コミュ食世代』の特徴です。

図5. 料理をスキルとして身につけたい (あてはまる+ややあてはまる)



※2019年誕生日後の年齢 [若者に関する調査：全体/n=1,904]



フェアな関係意識は、「男女差よりも個人差」のゆとり教育から

『コミュ食世代』の価値観は男女対等がベースになっています。仕事や家事を対等に担うだけでなく、これまでは女性だけの問題とされていたことを、男性も共有しようとする動きが広がっています。

『コミュ食世代』が持つ価値観の背景として、彼らが育った時代の影響があると思われます。彼らはゆとり世代の真ん中であり、自分らしさを重視するゆとり教育を受けています。「男女差よりも個人差」を象徴するものとして、彼らが小学生になった頃から広がり始めたランドセルの多色化や、男女混合名簿の採用などがあります。

このような時代に育った『コミュ食世代』にとって、男女フェアな関係は当然のことです。その上で、無理なく無駄なく合理的に物事を進めるため、「時間があるほう、得意なほうが行えばよい」という考えに至ったようです。

現在はまだ、共働きであっても出産すると女性が時短勤務となり、家事・育児の多くを担う家庭が多数派です。しかし今後、働き方改革の広がりとともに『コミュ食世代』の夫婦が増えることで、フェアに家事・育児を分担していく家庭がさらに多くなっていくことでしょう。

『コミュ食世代』の特徴「フェアな関係で、得意を活かす」から導き出したニーズは、「男女フェアにスキルアップできること」です。仕事・家事を問わず、性別に関係なく個人の特性を活かしてスキルアップできることや、様々な人と一緒に学びあえることが求められています。

「食」を切り口とした世代の定義（食・世代）

- コミュ食世代 平成元年～7年（1989～1995年）生まれ … 食をコミュニケーションツールとしてつながり、楽しむ世代
- ゆる食世代 昭和57～63年（1982～1988年）生まれ … 食へのこだわりや男女の役割などの規範意識が薄い(ゆるい)世代
- 装食世代 昭和52～56年（1977～1981年）生まれ … 日常の食をオシャレに装い、楽しむ世代
- 選食世代 昭和47～51年（1972～1976年）生まれ … 食の安全性など自分の価値観にあった食を選択する世代
- 遊食世代 昭和40～46年（1965～1971年）生まれ … 遊び心を持って食を楽しむようになった世代
- 宴食世代 昭和33～39年（1958～1964年）生まれ … バブル（宴）の時代に若い社会人であり、贅沢な食を経験した世代



「食・世代」は、都市生活研究所が定義した世代区分です。 <https://www.toshiken.com/shokusedai/>

調査概要

■ 定量調査「若者に関する調査」

調査時期：2018年2月
調査方法：WEB調査
調査対象：一都三県在住
23～59歳男女
1,904名

	男性	女性	計
コミュ食世代	260	244	504
ゆる食世代	200	200	400
装食世代	200	200	400
選食世代	100	100	200
遊食世代	100	100	200
宴食世代	100	100	200
計	960	944	1904

都市生活レポート【20代『コミュ食世代』のライフスタイル Part2】は、東京ガス都市生活研究所ホームページからのダウンロードが可能です。

<https://www.toshiken.com/report/life54.html>